

検証・浦和電車区事件の真実 No.9

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月23日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第9回 東労組には言葉の暴力ってもんがあるからよ！

2001年1月21日夕刻のY氏(当該事件被害者)に対する大潤被告、八ツ田被告による吊し上げは次第にエスカレートしていった。

俺は革マルだぞ！

大潤被告の恫喝は続いた。「俺はよー、こんな事ぐらいでおまえみたいなもんは、すぐ裁判沙汰起こすだろうからよー。こんなことで手は出さないが、東労組には言葉の暴力ってやつがあるからよ！俺は昔、何年間も裁判でやられたことがあるんだ。組合が勝ちとったものを、おまえはただで横取りする気か！」などと、怒鳴りながら繰り返し脅迫した。また、八ツ田被告も大声で「おまえ、ふざけた事をしたなあ。黙ってるんじゃない。俺は革マルだぞ！」とY氏を脅した。

次々と加勢し、たった一人を大勢で恫喝！

大潤被告と八ツ田被告の吊し上げに対し、二人に加勢する者も増えてきた。浦和電車区だけでなく、なぜか、東京車掌区や浦和車掌区の役員もいた。この日のY氏の追及は偶然ではなく、予め組織的に計画されていた行動であり、他の職場のJR東労組役員にも声が掛かっていたと考えるのが自然だろう。

Y氏は、最終的には10人程の人間に取り囲まれ、とても立ち去ることはできず、じっと耐えるしかなかった。解放されるまで約1時間半にわたり脅迫され続けたのである。

加勢した小黒被告は、携帯電話で自宅に電話し、妻に「帰宅が少し遅くなる」と話した後、Y氏に「お前のせいでみんな家庭まで犠牲にしているんだ。こんなことがなければさっさと帰れるんだ。かみさんに謝れ！」と激しく迫り、Y氏は仕方なく電話で謝った。浦和支部役員のJ氏は、「キャンプのメンバーの電話番号をメモしてよこせ！」と凄んだ。

大潤被告は語気を荒げて、「これで終わったと思うな！おまえを見る度にやってやるからな。この野郎！嫌になって会社を辞めたくなるほどやるからな！ここだけじゃないぞ。蒲田でもモセ(下十条運転区)でもやるぞ！」と最後までY氏を脅した。

たった一人のY氏を職場の通路で取り囲み、大勢で次々と罵声を浴びせ掛けるJR東労組の役員たち。18時前に始まったこの日の吊し上げは、19時半頃ようやく終わった。

JR東労組は組織的に自分が退職するまで徹底して脅し続けるつもりだと思い、Y氏は背筋が凍りつくような恐怖を感じた。憧れていた運転士の職を捨てることなど考えられなかったが、このままでは本当に辞めさせられると、たとえようのない大きな不安に襲われた。勤務中や休憩中に、浦和電車区以外の職場でも常に待ち伏せされ、組合員と顔を合わせる度に脅されたら、とても安全に電車の運転はできないと絶望的になった。(次号に続く)